史跡山形城跡　発掘調査現地説明会　（追加資料）

平成27年11月14日（土）　山形市教育委員会社会教育青少年課

調査要項

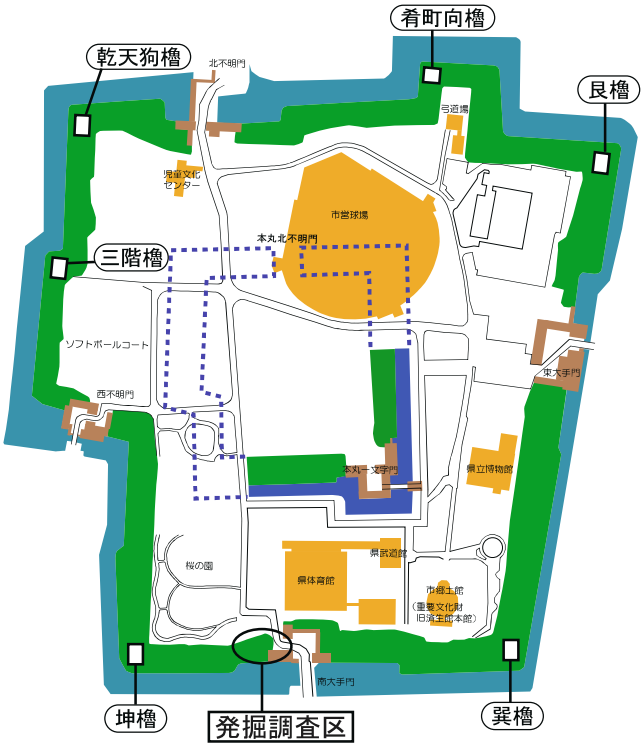
遺跡名	国指定史跡　山形城跡
所在地	山形市霞城町（霞城公園）
遺跡番号	１番（山形県遺跡地図）
調査期間	平成27年7月7日～8月25日
調査面積	約５０㎡
調査原因	史跡山形城跡（霞城公園）二ノ丸土塁園路整備事業
遺跡種別	城郭（近世城郭）
時代	近世・近現代
遺構	雁木、石垣など
遺物	瓦類、金属製品など
調査事業の主体	山形市公園緑地課
調査実施の機関	山形市教育委員会
調査担当	山形市教育委員会社会教育青少年課

１　概要

山形城跡は、最上義光が拡張整備したといわれる本丸、二ノ丸、三ノ丸からなる平城（ひらじろ）です。現在、二ノ丸から内側は霞城公園として憩の場となっていますが、昭和61年国史跡指定を受けて以来整備が進められ、二ノ丸東大手門や本丸一文字門石垣などが復原され新たなシンボルとなっています。

平成24年度以来、二ノ丸土塁（南西部）の園路を歩きやすいよう整備する事業に先立ち発掘調査を行っていますが、今回は南大手門の西側石垣に付属する雁木（がんぎ）（階段）の有無を確認する調査を実施しました。その結果、失われていた雁木の一部が良好な状態で発見されました。

今後の整備にあたっては、検出された遺構を保護しながら、その方針を検討してまいります。



歴代藩主年表

和暦	西暦	藩主	石高
延文元年	一三五六	斯波兼頼	
慶長五年	一六〇〇	最上義光	五十七万石
		最上家親	
		最上家信（義俊）	
元和八年	一六二二	鳥居忠政	二十二万石
		鳥居忠恒	
寛永十三年	一六三六	保科正之	二十万石
寛永二十年	一六四三		
正保元年	一六四四	幕府領	
慶安元年	一六四八	（結城）松平直基	十五万石
寛文八年	一六六八	（奥平）松平忠弘	十五万石
		奥平昌能	九万石
		奥平昌章	
貞享二年	一六八五	堀田正仲	一〇万石
貞享三年	一六八六	（結城）松平直矩	一〇万石
元禄五年	一六九二	（奥平）松平忠弘	一〇万石
		（奥平）松平忠雅	
元禄十三年	一七〇〇	堀田正虎	一〇万石
		堀田正春	
		堀田正亮	
延享三年	一七四六	（大給）松平乗佑	六万石
明和元年	一七六四	幕府領	
明和四年	一七六七	秋元涼朝	六万石
		秋元永朝	
		秋元久朝	
		秋元志朝	
		水野忠精	
弘化二年	一八四五	水野忠弘	五万石
明治二年	一八六九		

２　二ノ丸南大手門雁木の調査概要

二ノ丸南大手門の土塁には、江戸時代の城絵図に雁木が記載されていましたので、そのとおり雁木が存在するのかどうかの確認を目的として調査を実施しました。その結果、絵図のとおり雁木が検出されました。

検出されたのは、雁木の下部で、段数は最大７段、横列は最大４石です。本来は土塁の最上部まであったはずですが、失われており見つかりませんでした。

特徴としては、加工していない玉石を使用し、土塁に直接貼り付けています。西側は耳石という土留石が１０石確認されましたが、これもすべて玉石を使用しています。東側の石垣からの幅は約５．３ｍです。城絵図には幅が１丈８尺（約５．４ｍ）と記載されているので、ほぼ同じ寸法だったことになります。

年代は、検出状況、出土した瓦の製作年代などから、江戸時代の後半頃に作り替えられたものと判断されます。石垣や土塁が築造されたのは江戸時代の前半ですが、作り替えられる前のオリジナルの雁木がどこまで遡るのかは不明です。

明治時代になると、山形城は廃城となります。明治２９年（1896）には、陸軍歩兵第３２連隊が山形城跡に入部します。このとき城郭の改変を行ったようで、雁木の石材もある程度抜き取られました。雁木の階段としての機能が失われ、不要になった残存雁木は次第に土に埋まっていきました。戦前には、完全に埋没していたようです。今回の調査で、約１００年ぶりにその姿があらわされたことになります。

※雁木とは・・・石垣や土塁に登るために設置された石積みの階段